集・発行 一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長 川嶋みどり URL:http://imj.or.jp/ 〒 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル 4階 一般財団法人口腔保健協会内 一般社団法人日本統合医療学会事務局 E-mail:imj@imj.or.jp TEL:03-3947-8891

巻頭言



第24回学術総会の開催に向けて -コロナ終焉後の社会変革・イノベーションを目指して-

酒谷 薫 第24回日本統合医療学会学術総会 会長 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 特任教授

第24回学術総会を2020年12月12日(土)・13日(日)に 東京大学フューチャーセンター及び柏の葉カンファレンス センターで開催させていただくことになりました。本稿で はその概要についてご紹介いたします。

本大会のメインテーマは「幸せの統合医療: AIからスピリチュアリティまで」といたしました。AI(人工知能)などの先端技術に加えて人間の本質でもあるスピリチュアリティを大切にし、「幸せ」を追求する次世代の統合医療の実現を目指しています。AI、IoT(モノのインターネット)、ロボティクスなどの先端技術に関連したシンポジウム、高齢化社会に関連したシンポジウム、スピリチュアリティに関したシンポジウムなど学術議論の場に加えて、市民講座に芥川賞作家である柳美里氏をお招きして、被災地(福島県南相馬)での生活体験より得られる幸せとはどういうものなのか、お話ししていただく予定です。また、海外からはカナダの有賀誠一牧師(カナダ合同教会)、スイスのUrsula Wolf教授(ベルン大学医学部統合医療センター)を招待講演者としてお招きしております。

本年度の学術総会は新型コロナウイルス感染症(以下,コロナ感染症)が世界的な問題になる前に企画されましたが、コロナ感染症は重要な課題でありシンポジウムを新たに企画しました。現時点ではコロナ感染症に対する抗ウイルス薬やワクチンは確立されていないため、統合医療への期待が高まっています。例えば、いち早くコロナ感染症を収束させた中国における伝統医学(中医学)に関しては、優れた治療効果が報告されています(中医学治療については本紙別項をご参照ください)。

コロナ感染症により多くの人々が亡くなり、日常生活が 制限され経済が停滞する中で暗澹たる思いで過ごされ ている人々はたくさんいます。しかし一方で、コロナ感染 症は社会変革・イノベーションを加速する可能性もあります。例えば、IoT・AIなどの情報通信技術の医療分野への導入です。IoTモニタリング機器を活用した日常生活におけるヘルスケアや遠隔診療が普及する兆しを見せています。また、本学術総会のメインテーマでもある「幸せ」について多くに人々が改めて目を向けるようになるのではないでしょうか。当たり前だと思っていた日常生活が消失し、新しい生活様式や価値観が求められる中で、幸福とはどういうものなのか、今後議論が深まっていくように思います。また、科学だけではなく目に見えないスピリチュアリティ(霊性)を大切にする世界観も受け入れやすくなるのではないでしょうか。

中世ヨーロッパでは、ペストの大流行によりヨーロッパ全人口の三分の一もの命が失われたと伝えられています。しかし、ペストは中世ヨーロッパに大きな社会変革・イノベーションを生み出しました。ペスト終息後に、ルネッサンスが起きたのです。教会の支配から人間を解放する新しい社会システムや文化が生まれました。画家にして解剖学者でもあるダ・ヴィンチ、近代科学の祖と言われるアイザック・ニュートンなど多くの才能が開花したのはこの時期なのです。

コロナ感染症の終息後に、ルネッサンスのような明るい未来を築く社会変革・イノベーションが起きることを私は心より願っています。本学術総会のテーマである、AIなどの先端技術とスピリチュアリティ(霊性)が調和した新しい世界が生まれ、人々に幸福をもたらす医療が提供できる世の中になってほしいと願うのです。多くの会員の方々や企業の方々が本学術総会に参加し、コロナ終息後の明るい未来社会を築くことを考える場になるように、大会組織委員とともにさらなる準備を進めていきたいと思います。



中国における新型コロナ ウイルス感染(COVID-19) に対する中医治療



東京大学大学院新領域創成科学研究科·特任教授 (一社)日本中医学会·会長



中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は世界中に拡散し、未だに収束の気配を見せていない。しかし現時点ではワクチンは開発されておらず、レムデシビルやファビピラビル (アビガン®) といった抗ウイルス薬の効果は期待されているものの、未だに臨床現場の使用は限られている。

一方, 中国では新型コロナウイルス感染症はほぼ制圧されているようである。中国の政治制度のもとで都市封鎖や隔離政策を厳格に行なえることは、コロナウイルスの封じ込めに役立っているが、実はそれ以外にも医学的理由がある。それは、中国伝統医学(中医学)による治療である。中国では、生薬を使用する中医学治療は慢性疾患だけでなく感染症などの急性疾患にも使用されており、優れた治療効果が実証されている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に対する中医治療については、医療界でもほとんど知られていないのが現状である。

(一社)日本中医学会は武漢などにおける中医治療の効果に着目し、医療現場での検証を進めてきた。中医治療の効果について、日本中医学会理事の加島雅之氏(熊本赤十字病院総合内科)のコメントを引用する¹⁾。

「長い歴史の中で培われた漢方薬は、代表的なものである麻黄湯、葛根湯、小柴胡湯の出典である『傷寒論』は重症感染症の流行に対して編纂されたことが知られている。同様に歴史的に残った、かぜ症候群に使用する多くの漢方薬は、かつての致死的流行性ウイルス感染症を想起される疾病に対して大きな効果を上げた逸話と共に残されてきた。まだまだ、十分なエビデンスは構築されるに至っていないが、インフルエンザに対する有効性とともに、非特異的にウイルス感染症に対して有効である可能性が示唆されている。中国では、COVID-19の診療ガイドラインでも中薬(日本における漢方薬に相当)の使用の推奨がなされており、重症化予防に寄与するとの報告が出始めている」

*

日本中医学会は中国の医療現地からの情報を得ることができたので紹介する。

- 1)『中医臨床』160号の巻頭企画「新型コロナウィルス感染症―中医はいかに立ち向かっているのか」 (http://www.chuui.co.jp/chuui_plus/002906.php)
- 2) 『中医臨床プラス』(http://www.chuui.co.jp/

chuui_plus/index.php) 以下の記事が掲載されています。

通巻160号(Vol.41-No.1) ◇TOPICS/新型コロナウイルス感染症 中医はいかに立ち向かっているのか新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 中国の経験に学ぶ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)伝統医学でできること: 中医セルフケアのすすめ

最後に、中国から発せられる COVID-19に対する医療情報には、治療法に関する重要な情報が含まれているが、一方で政治的な意図 (プロパガンダ) が混ざっている可能性にも注意を向けるべきかもしれない。

対対

1) 加島雅之: COVID-19に対して漢方薬が重症化抑制 に寄与できた可能性を示す2例 日本感染症学会 HP 感染症トピックス (http://www.

kansensho.or.jp/modules/topics/index.php? content_id=31)



新型コロナウイルス 感染症(COVID-19) と統合医療

| 板村 論子 | 医療法人財団安田病院



新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) は、2019年 12月に中華人民共和国湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎患者から検出された新種のコロナウイルスです。今年2月1日、世界保健機関 (WHO) は新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」と定めました。その後急速にグローバルな広がりをみせパンデミックとなりました。

ヒトに日常的に感染するコロナウイルス (Human Coronavirus:HCoV)はHCoV-229E, HCoV-OC43, HCoV-NL63, HCoV-HKU1の4種類で、風邪の10~15% (流行期35%) はこれらのコロナウイルスが原因とみられています。一方、同じコロナウイルスであっても重症急性呼吸器症候群コロナウイルス (SARS-CoV)や、中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV)ではヒトに感染すると重症肺炎を引き起こし、高い致死率となっています。今回の COVID-19の原因である SARS-CoV-2は SARS-CoV や MERS-CoV と関連が深い β -コロナウイルスです。

感染症の発症を左右する要因として、病原体、感染経路、感受性宿主があげられます。これまでWHOや厚生労働省、国立感染症研究所や日本感染症学会など関連する諸学会から発信されているCOVID-19の情報は、

多くが病原体や感染経路に視点をおいた、予防に関するものとなっています。一方、感受性宿主は感染を受けやすい人を意味し、高齢者や基礎疾患のある人など免疫力の低下した人が感受性宿主になります。

私たちは日常、風邪などの感染症に罹る時には免疫力が低下しているからと理解しています。統合医療は「人」を中心とした医療です。宿主である「人」の免疫力を保つためのセルフケアとして作成されたのが『新型コロナウイルス感染拡大の中で、一人一人が自宅で取りくめる統合医療によるセルフケア』です。

2部構成になっています。長期にわたる外出自粛の中で、食事・運動・睡眠など生活スタイルの改善による予防策、ストレスマネジメントを含めたメンタルケアについては「Part 1」で提案しています。「Part 2」では、漢方、鍼灸、アーユルヴェーダ、アロマセラピー、メディカルハーブ、カイロプラクティック、サプリメント、ヨーガなど各 CAM専門領域の先生方による、栄養・運動・睡眠・メンタルケアのセルフケアについて紹介されています。今回、用語委員会の先生方が主に作成し、「新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックへの提言」として4月中に当学会ホームページ(http://imj.or.jp)で閲覧できるようになりました。

現在、COVID-19の治療に関しては、抗ウイルス薬や効果のある治療薬は確定されていません。またワクチン接種による予防に関しては時間がかかる状況の中で、「人」の自己治癒過程に働く治療として中国伝統医学、漢方、アーユルヴェーダやホメオパシーが世界では試みられています。インド政府はアーユルヴェーダ、ユナニ、ホメオパシーなどによる予防を推奨しています。またキューバでは国の対策として、感染拡大を防ぐための予防として自国のホメオパシー薬(PrevenHo Vir)が用いられています。さらにホメオパシーによる臨床については、世界70か国以上のホメオパシー医師の団体であるLMHIによってプロジェクトが進められています。

一方,アリゾナ大学のAndrew Weil博士のグループは"An Integrative Approach to COVID-19 Webnar"をYouTubeで発信しています。COVID-19の重症化にはサイトカインの過剰産生(cytokine storm)がかかわっていますが,このcytokine stormにも対応した統合医療についての情報です。ネットでは数多くのCAM領域の情報を知ることができますが,どのような情報が信頼できるかについて当学会として引き続き発信することが大切だと考えます。

参考サイト

- 1) 厚生労働省; https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/
- 2) 国立感染症研究所; https://www.niid.go.jp/niid/ja/
- 3) WHO 神戸センター: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO公式情報特設 https://extranet.

- who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage
- 4) World Health Organization (WHO): https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/
- 5) Centers for Disease Control and Prevention (CDC): https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/
- 6) Ayush省: AYUSH: Advisory for Corona virus; https://pib.gov.in/pressreleasepage.aspx? prid=1600895#
- 7) キューバのホメオパシー薬: Cuba to distribute homeopathic medicine to prevent COVID-19; http://www.cadenagramonte.cu/english/show/articles/30198:cuba-to-distribute-homeopathic-medicine-to-prevent-covid-19
- 8) ホメオパシー医師を中心としてLMHI (Liga Medicorum Homoeopathica Internationalis; http://www.lmhi.org/Home/Corona



コロナ禍の今だから ナイチンゲールを





新型コロナウイルス感染症が地球規模で猛威を奮う中,5月12日に生誕200年を迎えたフローレンス・ナイチンゲール。クリミア戦争時に、傷病兵士らの看護を献身的に行ったとして世界にその名を広めました。しかし、彼女の真価はその後の諸活動や精力的な著作によって発揮されたというべきでしょう。

90年の生涯での業績をあげればきりがありませんが、まさに今、未知の新型コロナウイルスの猛威が拡がる折、彼女が成し遂げたいくつかのことは、そのまま、現代に通じるものが多くあるとの思いを深くしています。その中から2つのことを取り上げてみます。

1つは、スクタリの軍病院での兵士たちの死亡率の異常に高い要因が院内感染であったことをつきとめ、オリジナルな統計図で示したこと。2つ目は、その教訓と経験知をもとに「環境」と「自然治癒力」を柱にした論を『看護覚え書』に著したことです。つまり、この2点から、いま、新型コロナウイルス感染症に向き合う私たちの考え方や具体的な生活の仕方に関して示唆が得られると思った次第です。

ナイチンゲールが生まれ育った当時のイギリスは, 18 世紀末から19世紀にかけての産業革命で急速に発展した工業により, 都市の衛生状態が人々の健康を著しく脅 かしていました。河川は汚染して悪臭を放ち、空は煤煙に覆われ呼吸をするのも苦しいほどだったと言います。 農村から集められた労働者たちの生活は悲惨を極め、貧富の差は、寿命や乳児死亡率にも現れるほどでした。富裕な上流階級の娘であった彼女でしたが、母の慈善事業に同行して、貧しい人たちの生活を目の当たりにし、「不安や貧困、病気に蝕まれる人々の苦しみがつきまとって離れない」と悩み続け、紆余曲折を経て看護の道に進む決意をしたのでした。

1854年クリミア戦争が始まり、38人の看護団を率い て海路スクタリに到着し、まず直面したのが目を覆うば かりの軍病院の悲惨な状況でした。医療品はじめ、食料 や寝具など必要な物資の欠乏に加えて、水不足、排水の 悪さと清掃の不行き届きで、床には患者の汚物が流れて 不潔なまま放置されている始末。汚れた空気が滞留して 換気の悪い病棟には、1,000人もの傷病兵たちが半裸 の状態で汚れたシーツにくるまって寝かされていました が、ろくに食べ物も与えられず衰弱しきって多くのいの ちが失われていました。そこでまず、物資の調達、掃除 と洗濯に着手しますが、1度に1,200人もの傷病兵が送 られてくることもあり、死者数は減らず埋葬場所の交渉 まで行わなければなりませんでした。彼女自身も、「求め られている仕事の中で看護はほんの一部しだと言ってい ます。とはいえ、分刻みの中で常に冷静に全体を見渡し、 「自分の目にとまった患者は絶対に1人では死なせない」 と決意して、力の及ぶ限り苦痛を和らげるための手をつ くし、最期を看とりました。

戦争が終わったのは、1856年4月。すっかりやせ細って帰国したナイチンゲールの頭を離れなかったのは、兵舎病院で亡くなった多くの兵士たちのことでした。国を挙げての彼女への賛辞や記念行事にも一切答えず、ひっそりと自室に引きこもり、統計学者の協力を求めてクリミア戦での兵士らの健康管理の総括をしました。亡くなった18,000人のうちの73パーセントが、収容スペースを超えて過密になった上、兵舎病院の不潔な環境が死を招いたとの結論を得て、彼女のオリジナルな統計図で

示しました。兵士らの死因のほとんどが、戦傷による死の7倍もの、防げたはずの伝染病による死だったことが一目瞭然です。近代細菌学の開祖者ロベルト・コッホもルイ・パスツールも同時代の学者ですが、細菌学は未確立でした。つまり、21世紀の今、未知な新型コロナウイルス感染症に直面している私たちと、ナイチンゲールの立ち位置の共通性を感じます。

こうしたクリミアでのさまざまな体験から、彼女自身が編み出した原理の要ともいえるのが、"環境"と"自然治癒力"です。不朽の名著『看護覚え書』の冒頭には、「あらゆる病気は回復過程」とあり、「日々の健康上の知識や看護の知識は、つまり、病気にかからないような、或いは病気から回復できるような状態にからだを整えるための知識は、もっと重視されてよい」と書いています。このことは、統合医療の掲げる基本理念とも一致していて、どの頁にも、私たちの生き方や暮らし方に役立つ普遍的な知識がちりばめられています。

厚労省は新型コロナウイルスに関連した「新しい生活様式」を提言し、その具体策の中に"こまめに換気"とありますが、ナイチンゲールは「清潔でなければ換気の効果は下がるし、換気しなければ完全な清潔はえられない」と述べています。ドアや窓を開けても、よどんだ空気や排気ガスが流れてくるのでは、本来の換気とは言えないでしょう。食事に関しても、横並びで料理に集中するというのは、感染防止策からは一定の効果はあるかも知れませんが、ウイルスと共生していくことを考えれば、防禦策にとどまらず、宿主側の「治る力」を高めるために何を食べるかに重きをおくことが、統合医療の考え方ではないでしょうか。ワクチンや治療薬の早期普及を願うとともに、人間にそなわっている自然治癒力を高める新しい生活習慣を見出し、広めることの意義を、ナイチンゲールと同じ目線と軸足で考えてはいかがでしょうか。

参考文献

F.ナイチンゲール, 湯槇ます・薄井坦子他訳: 看護覚え書 改訂第6版, 現代社, 2000.

川嶋みどり:親愛なるナイチンゲール様, 合同出版, 2019.

事務局だより

【2020年度会議等】

- ■2019年10月31日 第1回業務執行理事会
- ■2019年12月6日 第2回業務執行理事会/第1回通常理事会/合同委員会
- ■2020年2月10日 賛助会員懇親会
- ■2020年4月2日 第3回業務執行理事会
- ■2020年4月30日 第4回業務執行理事会

■2020年5月10日 第2回通常理事会

【2020年度研修・セミナー等】

- ■2019年11月30日 統合医療女性の会「みんなの統合医療カフェ 2019・秋|
- ■2019年12月7日·8日 第23回日本統合医療学会学術大会 (IMJ 2019 in 鹿児島
- *新型コロナウイルス感染拡大により2020年度の認定研修・認定試験はとり行われない

【今後の予定】

■2020年9月5日 第3回通常理事会/理事·支部会交流会

●世界中が新型コロナウイルス感染拡大という共通の脅威により、人々の健康のみならず、個人の自由や人間関係、学び、働く権利が中断され奪われました。科学技術の急激な進歩のもとでの社会のもろさの一端を味わいました。一定の感染防止策を実践しながら個体レベルの治癒力の増進こそ鍵。そこで、「一人一人が自宅で取りくめる統合医療によるセルフケア」をお読み頂き、普及されますように。12月の第24回学術大会のテーマ「コロナ終焉後の社会変革・イノベーションを目指して」は、まさに時宜を得たものです。無事開催と盛会を祈りつつ。(川嶋みどり)